

鎌倉楽しむ会

武家の古都・鎌倉の歴史

光明寺の「紅蓮」と
和賀江島と湘南の
海原を
訪ねる

(スタート) JR 鎌倉駅西口

平成29年7月26日

ウオーナーの肖像



● 1881～1955.アメリカの東洋美術研究家。鎌倉など古都を第二次世界大戦の空爆から救ったとされる、NHKの特集番組にも報道されていた。本人は否定したといわれる。昭和61年(1986)「古都保存法」制定20周年を記念して記念碑が建った。ハーバード大学附属美術館東洋部長などを務めた。

旧御用邸門



● 明治33年(1899)に明治天皇の皇女のために造られた鎌倉御用邸の門。関東大震災で倒壊して御用邸が廃止された後、昭和8年(1933)、跡地に御成小学校が建てられ、その正門として受け継がれている。昭和30年(1955)鉄筋コンクリートに建て替えられた。門標の校名の文字は、俳人で鎌倉に暮らした高浜虚子が筆をとった。

問注所跡



● 元暦元年(1184)平氏追悼を目前にした源頼朝公は鎌倉幕府の基盤整備を進めていた。政治を司る政所に続いて、裁判を担当する門柱所を設置した。当初は頼朝公の屋敷内にありましたが、第二代將軍源頼家公の時代、訴訟が増えるに従ってこの地に移ってきた。

裁許橋



● 別名・西行橋ともいう。今小路を横断して流れる佐助川に架かる橋。橋の名は、訴訟を裁許する門柱所が近くにあったことに由来するという。また、僧侶であり歌人でもあった「西行」が鎌倉に来たとき、この橋の上で源頼朝公に名前を聞かされたとか、西行がこの橋の近くをよく通っていたことから、別名「西行橋」ともいわれている。

下馬



● 若宮大路には、上ノ下馬橋、中ノ下馬橋と各下馬橋に馬を留める場所があったという。鎌倉時代、鶴岡八幡宮に参拝するときは、貴人が神仏に敬意をはらって、ここで馬を下りることになっていたことから「下馬」という地名になったと伝えられる。

延命寺



● 山号は帰命山。五代執権北条時頼公の夫人が建てたと伝えられている。本尊の阿彌陀如来像、右側に観音像、左には寺宝とされる地藏菩薩像がまつられている。運慶作とされる地藏菩薩像は別名「身代わり地藏」といい、時頼公夫人の守護仏である。

● ある日、時頼夫妻が負けた方が裸になるという賭けをして双六遊びをしたときのこと、負けそうになった夫人が困ってお地藏さま念じたところ、裸の地藏菩薩が双六盤の上に現れて夫人を救ったという。夫人は感謝のしるしに地藏像を造らせ、以前にもまして篤い信仰を捧げた。地藏菩薩像は女性の姿をした裸像だが、普段は法衣をまとっている。

元八幡神社



● 源頼信・頼義父子が、長元4年(1031)、房総半島の平忠常の乱を平定したさい、それ以前に乱の平定に失敗していた桓武平氏の平直方は、源頼義の武芸を認めて、頼義を婿に迎え、鎌倉の屋敷を譲ったという。これによって直方に従属する相模の武士たちも、頼義と密接な関係を保つことになったのである。

● 源頼義の長子・義家は長暦3年(1039)に生れ、7才のとき京・石清水八幡宮で元服した。その後、陸奥守に任じられた頼義は康平5年(1062)、長年にわたって抵抗を続けた陸奥の豪族安倍氏を討ち(前九年合戦)、翌年、鎌倉の由比郷に由比若宮(現在の元八幡)を創建した。

● これは頼義が奥州におもむくにあたり、勝利を祈願した源氏の氏神である山城(京都市)の石清水八幡宮を勧請したものである。永保元年(1081)、この由比若宮の社殿を長子・義家は修理した。翌々年、義家は奥羽地方の豪族清原氏の内紛に介入して出兵した(後三年合戦)。従軍した坂東武者たちに私財から恩賞を与え信頼を深めたといわれている。

来迎寺



● 遊行寺末。時宗。山号随我山。源頼朝が三浦大介義明の菩提を弔うため建久5年(1194)に建立した。衣笠城主義明は、源頼朝が旗揚げしたとき大奮戦し89才で戦死したが、頼朝は17回忌まで義明が生きたものと呼ばれた。境内裏手には三浦一族の墓があり百余基の五輪塔が並んでいる。

實相寺



● 山号は弘延山。開山は日昭。曾我兄弟に父の仇として討たれた武将・工藤祐経の屋敷跡といわれる。日昭は母親が祐経の娘といわれる。日昭は日蓮の直弟子の筆頭として、日蓮亡き後は一門の長老と仰がれた。

五所神社



● この地は、もと乱橋村と材木座村に分かれていて、乱橋村に、三島社、八雲社。金毘羅社の三社。材木座に諏訪社、祖女八坂社の二社があり明治41年(1908)に合祀、五所神社となった。宝物として弘長2年(1262)の石造板碑(国重文)がある。

乱橋



● 鎌倉十橋のうちの一つ。濫橋とも書く。新田義貞の軍勢が鎌倉に攻め入ったとき、北条幕府軍の防衛線がくずれはじめたのが、この橋の辺りだったことから乱橋と呼ばれるようになったといわれる。

九品寺



● 山号は内裏山。創建は建武三年(1336)で、新田義貞が鎌倉に唯一建立した寺と伝えられる。北条方の戦死者を弔うため、鎌倉攻めの折の本陣跡に建立した。山門と本堂に掲げられた「内裏山」「九品寺」の字は義貞の筆を写したもので、真筆の額は本堂に保存されている。

ふだらくじ 補陀落寺



● 真言宗大覚寺派。山号は南向山。養和元年(1181)、源頼朝の祈願所として創建された。開山の文覚上人は、もと武士で、誤って渡辺(源)渡の妻袈裟御前を殺した。罪を償うために出家。その後、伊豆で頼朝と出会うと親交が始まったといわれる。珍しいのは平家の赤旗。平家滅亡の折に、平宗盛が最後まで持っていたものと伝えられる。本尊の不動明王像は平安時代の作。薬師如来像は行基の作。

光 明 寺



● 山号は天照山。開山は然阿良忠。創建は寛元元年(1243)と伝えられる。四代執権北条経時が開いた浄土宗の大本山。良忠は浄土宗の第三祖で、良忠が鎌倉に住んだことで、浄土宗が関東以北へ広がったといわれている。歴代執権の帰依を受け、大寺院に発展、念仏道場の中心とな

っていった。江戸時代には関東十八檀林の筆頭として各地から学僧が集まり、修行の中心としても栄えた。山内の「天照山」の扁額は後花園天皇の直筆と伝えられ、後土御門天皇からは関東総本山の称号を受け勅願所に定められた。また「お十夜法要」も勅許され以来、現在まで念仏法要が盛大に行われている。本堂左手の記主庭園は伝小堀遠州作で、夏の紅蓮は見事。寺宝の「当麻曼荼羅縁起絵巻」二巻は国宝で鎌倉時代の作品。

● 千手院…もとは光明寺の僧坊だったと伝えられ、千手観音が知られ千手院となった。
● 蓮乗院…光明寺の僧坊であった。源頼朝の鎌倉入りを進言した千葉常胤の守護仏と伝えられる本尊阿弥陀如来像(市重文)は鎌倉時代の作とされる。

和賀江島



● 現存する日本最古の築港遺跡として国の史跡に指定されている。材木座は遠浅の海で、風波は荒く、難破、破損する船が多く、大型船も安全に出入りできる港湾設備が必要であった。
● そこで、九州筑前でも港を築いた実績のある往阿弥陀仏という勧進僧が貞永元年

(1233) 船着き場として築港を幕府に申請した。時の執権北条泰時はこれを受け入れ相模川、酒匂川や伊豆辺りから運んだ石が積み上げられて約一ヶ月ほどで完成したとされる。鎌倉時代後期には日本各地をはじめ中国との交易船で賑わい、極楽寺の管理の下で関税を徴収するなど海の玄関口としての役割を果たしていた。江戸時代までは港として利用されていたが震災など積石が崩れ利用価値は終わった。

六角の井



● 小さい時から弓矢の名人であった源為朝は、保元元年(1156)皇位継承にからんだ京で起こった保元の乱で敗れ、二度と弓を引けないよう腕の筋を切られて伊豆の大島に流された。しかし、為朝は自分の弓の力を試したく、大島から鎌倉光明寺の裏山の天照山にめがけて矢を放ったところ、この井戸に落ちたという伝説がある。